

和田くんの活躍を、紫友同窓会のホームページで紹介しました。(2007年4月～9月末) ここに再掲いたします。  
皆さまの活躍もお知らせください。  
なお、以下のページのリンク等はすべて停止させております。

卒業生こんな人、あんなこと

「新種のくじら」発見物語



上(写真1)  
下(写真2)

K 和田くん、いろんな新聞を送ってくれたけど(写真1)、どこが珍しいの。新種発見って、けっこう新聞に載ってるじゃない。

W 鯨って、魚編に京って書くんだぞ。京は兆の一万倍。すごく大きいってこと。大きい生物の、新種発見って本当に珍しいんだ。鳥類のヤンバルクイナだってすごいことだったんだから。良く新聞に載るのは昆虫のような小生物。大型動物の最後の種の発見かもしれないぞ。

K ふーん。それがこのタイトルの「90年ぶり」(写真2)ということにつながるのね。そういえば、ずーっと鯨追いかけていたね。

W そう、ライフワーク。約30年追いかけて、やっと新種だって「ネイチャー」(写真3)に発表するところまできたんだ。

K 「ネイチャー」ってあの「ネイチャー」？ そりゃすごい。ほんとすごいよ。

W これ。

K えっ、表紙に日本語(写真4)。おっ、和田くんの鯨の話が表紙に載ってるじゃない。

W 本文(写真5)は英語。

K 簡単に説明してよ。

W 1970年代後半に、調査捕鯨で捕獲した鯨のサンプルの分析を担当したんだ。今まで扱ってきたどの鯨とも違うので、「新種」っていう直感があった。でも骨格は残っていなかったんだ。ところが1998年に山口県の角島で漁船に衝突した鯨があって、こちらは骨格を残してくれたんだ。この2例が同じ種と分かり、新種と確認できた。新種って聞くと珍しいと思われるかもしれないが、姿がナガスクジラと似ていて、体長だけが短いんだ。と言っても12メートルはあるけど。ナガスクジラは倍の長さがある。捕鯨が盛んだったときも、資源保護で子どもは捕獲しなかった。ツノシマクジラはナガスクジラの子どもと見られていたから捕鯨の対象外だったんだ。捕獲対象外だから研究も進んでいなかった。

K ツノシマクジラって名前？

W 和名は「ツノシマクジラ」。角島へ感謝を込めて命名した。学名は「*Macrorhynchus usukioensis*」。こちらは学名を正式に発表する



news, p.219: 新種のクジラが見つかった

上から(写真3、4、5)

紫友同窓会について

同窓生の動き

- 会員からのお知らせ
  - ①紫友美術会
  - ②同期会のご案内
- こんな人あんなこと
- 紫友文庫
- 緩和時間

母校と伊藤長七

その他

て命名した。学名は「ハラエノフテラ・オオムライ」。こちらは尊敬する元日本鯨類研究所長の大村秀雄さんへの敬意を込めて命名。

K 「〇〇ワダダ」なんて自分の名前を付けられないの。和田くんの名前が付くチャンスはもうないよ。

W 命名法に一応慣例はある。でもこの「オオムライ」にはちょっといきさつがあるんだ。  
(ここでふたりはささやき声で話す)

K 書かせてよ。

W まだ、だめ。

K じゃ、自費で研究のため世界を回ったことだけでも書かせてよ。

W (暗黙の了解)



この記事に登場するWは、本校卒業生の  
018A 和田志郎さんです。  
お話をうかがったのは同級生の小駒(K)です。

Copyright Shiyu alumni association. All Rights Reserved